

第3章 四側面型評価手順

(Four-Pronged Assessment Approach)

四側面型評価モデル

四側面型 (four-pronged) 評価という革新的なモデルは、脅威を行った人物を評価してその脅威が実行される”らしさ” (likelihood) を評価するために開発された。誰も口頭又は文書で脅威を予兆する気味の悪いメッセージを送ることはできるが、その脅威を評価するだけでは脅威メッセージを送った者に脅威を実行するだけの意図、能力があるのか、又は手段があるのかを決めることはできない。その決定には脅威者自身を評価することが極めて重要である。

教育者、法執行官、精神衛生医その他関係者は、脅威を今までと同じ”古典的な”方法では処理できないことを認識すべきである。脅威評価に従事する人は、この論文で提示される脅威評価の基本概念、個性評価、危険評価についての訓練を受けること、及び全ての脅威評価をタイムリーに行うことの重要性を理解する必要がある。

一体、生徒に関するどのような情報があれば、どの生徒が脅威を実行するらしいと判断するのに役立つのか。それは年齢か。化学教室での学年か。彼の社会経済的なレベルか。全米暴力分析センターの経験によれば、ある人物を脅威評価するための評価情報はごく一部か又は限られた領域の情報—例えば生徒の学業成績、家族生活、又は健康状態—しか入手できない。だが脅威が実行されるらしいかどうかを評価するには、脅威者の生活の全側面の情報を検討する必要がある。

このモデルは、生徒が宣言した脅威について、その生徒が脅威を実行する動機、意図、手段を持っているかどうかを決定するために、生徒を評価する方法の骨組みを提供するものである。その評価方法は、その生徒の四大領域に関して得られた”環境の総体”情報に基づいて行うものである。

第一側面：生徒の個性

第二側面：家族の力学

第三側面：学校の力学とその力学内での生徒の役割

第四側面：社会の力学

以下、学校が脅威を受けた場合に、どのようにしてこの四側面型評価モデルを使用するのかを事例で説明する。

前章で説明した手順に従って、脅威そのものに関する予備的評価を行う。脅威者の身元が明らかな場合には、脅威評価者は迅速に上記4側面の脅威者情報をできるだけ収集する。

評価者は、評価者として指名され訓練受講済みの学校心理学者、カウンセラー、あるいはその他の職員が当たる。情報は評価者の生徒に関する個人情報や教師、職員、その他の生徒（生徒を呼ぶことが妥当な場合だけ）、両親から、あるいは法執行部門又は精神衛生専門家などその他の適当な情報源から収集する。

その生徒が上記四側面のそれぞれについて深刻な問題点を持ち、脅威が高レベル又は中レベルと評価された場合は、その脅威を一層深刻に受け止め、学校当局による適切な指導・介入と法執行手続きのできるだけ迅速な着手が必要となる。

評価を迅速に実行しようとする、上記四側面について生徒を徹底的に評価することはできないかもしれない。それでも、その生徒と生徒の生活に関する情報をできるだけ収集することが、その生徒には脅威を実行する能力があるのか、あるいはその生徒が脅威を実行せざるを得ないほど促進圧力は強いのかについて判断するのに重要である。

以下に、上記4側面の各項目について検討すべき要素を説明する。

生徒の個性：行動の特長と性向

ウェブスター辞典によると、個性とは「個人の性格、行動、気質、感情、及び知性の総合的なパターン」であるという。このパターンは遺伝的な気質と環境による影響の産物である。個性は自分の世界観及び自己観、並びに他人との対話の進め方を形成する。ある人物の個性の正確な像（すがた）を把握するには、一定期間、色々な状況の下でその人物の行動を観察する必要がある。

青少年の個性の発展を理解することは、その年齢期にある誰かが行った脅威を評価するのに極めて重要である。青少年の個性はまだ結晶化（完成）していない。まだ成長過程にある。青少年期において青少年は、成人から見れば異常と感じられる行動を探索し実行する傾向がある。青少年は弱さ（Vulnerability）と受け入れ（Acceptance）」について、自立と従属の問題について、又権威にいかに対処するかについて苦悩している。

青少年の個性を理解する手がかりは、次の状態下にある彼らをよく観察することで得られる。

- ・日常生活の中で遭遇する衝突、失望、失敗、侮辱、その他緊張状態に対処している時。
- ・怒り、欲求不満、失望、侮辱、悲しみ、その他類似の感情を表現しているとき。
- ・頓挫、失敗、実際の又は感知した批判、失望、その他マイナスの経験に対して弾力的対応を表明する時、又は表明しないとき。
- ・生徒が自分自身をどのように感じているか、自分自身はどんな種類の人物であると想像しているのか、自分が他人からどのように見えるかを表明するとき。

- ・規則、指示、あるいは権威像に対応するとき。
- ・管理、注意、尊敬、賞賛、衝突、その他のニーズへの欲望又は必要性を表明し又は表現するとき。
- ・他人の感情又は経験を理解したことを表明し、又は表明しないとき。
- ・他人に対する自分の態度を表明するとき。(例えば、生徒は他人を劣者として、又は軽蔑の念をもってみているか。)

評価者自身が生徒を直接に観察できなかったときは、生徒が脅威を行う前からその生徒を知っている人から情報を求めること。

家族の力学

家族の力学とは、家庭内に存在する行動、考え方、信念、伝統、役割、慣習及び価値観のパターンである。生徒が脅威を行った場合、その生徒の家庭内の力学及びそれらの力学を生徒及び生徒の家族がどのように感じているか—に関する知識をもつことが、脅威の実行を決定する際に役割を果たす生徒の生活環境や生徒への圧力を理解する上で主要な要素となる。

学校の力学

学校の力学と脅威の評価との関係はまだ経験的に確立されておらず、従ってその重要性のレベルは、事件に関する追加情報の内容により増加することも減少もする事もあるだろう。

評価者又は教育者にとって自分たちの学校を”批評”することは難しいであろうが、学校が最終的に犯罪現場になりうるだけに、学校内の特定の力学についてある程度の理解を持っておくことが必要である。

学校の力学とは、学校文化の中に存在する行動、考え方、信念、伝統、役割、慣習及び価値観のパターンである。いくつかのパターンは明瞭であろうし、他のいくつかは目立たないかもしれない。学校内で公式・非公式に評価され誉められる行為を識別しておくことは、なぜ一部の学生が学校当局に気に入られ関心を惹き学生仲間の中で権威を持つのかを説明するのに役に立つ。それは又、ある学生が学校文化によってある”役割”を与えられる説明となるだろうし、生徒が学校の価値体系の中に自分自身がどのように溶け込んでいるのか、又はなぜとけ込めないのかを知るのに役立つ。

生徒と学校職員では学校内の文化、習慣、価値について異なる感じ方を持っているかもしれない。評価者は学生が学校の力学をどのように見ているのかよく知る必要がある。生徒の受け止め方と学校当局の受け止め方の大きな相違があれば、そのこと自体が評価者にとって重要な情報の一つである。

社会の力学

社会の力学とは、生徒が住むコミュニティ（広く捕らえること）に存在する行動、考え方、信念、伝統、役割、慣習及び価値観のパターンである。これらのパターンも又、生徒の行動、生徒が生徒自身をどのように感じているか、人生の見方、態度、選択の自由、ライフスタイルに大きな影響を与える。青少年の信念と意見、友人の選択、活動、娯楽、読書内容、あるいは薬物、アルコール又は武器に対する生徒の態度は全て、生徒が住み通学するコミュニティの社会力学を反映するだろう。

（広く捕らえた）コミュニティの中では、青少年の仲間グループがその態度や行動に極めて大きな役割を持っている。生徒の友人の選択や仲間との関わりは、その生徒の態度、自己意識、脅威を行うか行わないかの決定に価値のある手がかりを与えるであろう。